

5 本時の学習指導

(1) 目標

相手に伝わりやすい英語を話すためには何が大切なのかを考え、トーン、表情などの「話し方」をより工夫し、話すことができる。
(思考・判断・表現)

(2) 『本時』における学びをたのしむ生徒の姿について

正しい発音で話すことだけでは、相手に思うように伝わらないこともあるということに気付かせ、「話し方」を工夫したいという姿勢を引き出す。これまでに何度も使用してきた【話し方の極意 five】を再確認することで、今までの経験から、より伝わりやすい英語の「話し方」を実感させたい。また、他のグループと動画を見合い、「話し方」に着目して改善点を話し合う活動をすることで、互いの「話し方」のよさに気付かせる。仲間と協力しながら、より伝わりやすい英語の「話し方」を追究し、何度も動画を見ながら振り返り、より伝わりやすい英語に近づくことができていると実感させたい。

(3) 本時の学習展開

生徒が思考し続けるための 教師の意図的な働きかけ 手だて②	予想する生徒の姿	手だての有効性はどうであったか (生徒の姿の実際・改善点など)
1 漫画などのセリフを用いて、発音や表情を意識した練習をする。 相手に対する伝わり方が異なることを実感するために、漫画などのセリフを異なった表情やトーンで発音する。	・同じ文章なのに内容が違って聞こえる。 ・発音は同じなのに違うように聞こえる。	
2 話し方の極意fiveを再確認する。 伝わりやすい話し方について考え、グループで協力してより伝わりやすい英語にしていくなために、発音や表情などに着目し、書き込めるワークシートを用意する。	・自分たちが思っている以上に表情が硬いね。 ・難しい表現を使ってしまっているね。 ・強調したいところにアクセントがおけてないね。	
3 大グループで共有する。 小グループで動画を作成し、2チーム合同(大グループ)で協力する。改善前と比較して、よりよい動画を作成するために、お互いにアドバイスをし合い、動画を撮影しながら、活動を行う。	・表情を意識して話すと、伝えたい内容が分かりやすくなるね。 ・Aチームは表情の明るさを意識しているから、真似してみよう。	
成長や課題を認識し、次の学びにつなげる 「振り返り」の活用 手だて③	① 分かったこと 表情やトーンのの違いで、見ている人に、より伝わりやすい動画になることを実感した。	
4 振り返りを書く。 できるようになったことの実感を促すために、「話し方」を意識する前後の動画を比較した上で、【①分かったこと】と【④次に生かしたいこと】について振り返るように指示する。	④次に生かしたいこと 英語の文章では理解できないことも、動画にすると伝わりやすくなることが実感できたので、今後も表情やトーンを意識して英語を話すように心掛けたい。	

(4) 評価

相手に伝わりやすい英語を話すためには何が大切なのかを考え、トーン、表情などの「話し方」をより工夫し、話すことができたか、話し合いの様子やワークシートの記述、撮影した動画から判断する。